



## 『図書室だより』のWeb配信を開始して

浜田美智代

### I. はじめに

図書室業務では雑誌や書籍の受入・配架作業と相互貸借業務が主になりがちですが、利用者への新着資料のお知らせなどを含めた“広報”も、大切な業務の1つです。

今回、図書室の“広報”の役割を担う『図書室だより』のWeb配信について、職員の図書室への意見も併せてアンケートを実施いたしましたので、ご報告します。

### II. 当図書室の概要

社会保険神戸中央病院は、病床数424床、1日平均外来患者数約850人、年間入院患者数6,300~6,800人、職員数729人(常勤職員数572人)、うち常勤医76人、看護師338人の、神戸市北区にある北神地区の中核病院です。

図書室は1968年から医学資料室として開設され、入院カルテを管理する部門との兼務です。図書室は3人体制となっており、司書2名が業務を兼任しています。他に医局秘書業務担当者が2名、午前中みのみのパート職員が1名です。広さは67.211㎡(図書・カルテ保管庫102.9㎡、プレハブ倉庫1/2棟)、蔵書は約2,000冊、雑誌は洋雑誌52タイトル、和雑誌63タイトル、合計115タイトルを現在購読中です。

### III. 『図書室だより』の作成とWeb配信へ

当初新着雑誌のお知らせは、部屋の外の廊下にある掲示板に雑誌の背表紙をコピーしたものを貼り出す程度でした(図1)。そこで、病院機

能評価受審前の2005年に、済生会兵庫県病院図書室の田中文字様のご厚意により頂いた『図書室だより』を参考に、当図書室の『図書室だより』を作成しました(図2)。



図1

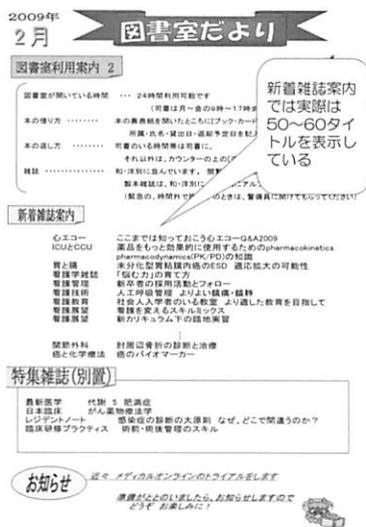


図2

はまだ みちよ: 社会保険神戸中央病院医学資料室

作成した『図書室だより』は、毎月上旬に医学資料室入口と医局ラウンジ、職員食堂の3カ所に貼り出していました(図3)。

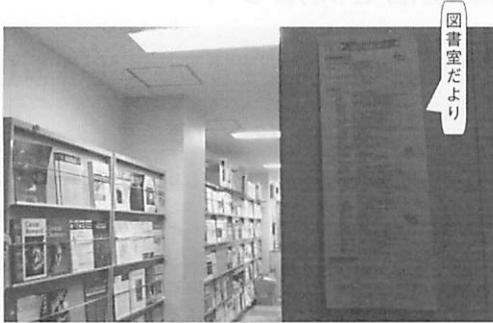


図3

当院はまだ紙のカルテで運用されていますが、情報の電子化を図るため2008年10月1日より院内イントラネットが導入されました。結果、各自のIDとパスワードでログインすることにより、各部署へ紙で配布されている院内通報やお知らせなどがパソコンでも閲覧できるようになりました。

このイントラネットの導入に伴い、『図書室だより』も2008年11月からイントラネットでも月1回配信(以下Web配信)することにしました。ただ、院内では端末として約120台のパソコンが利用できるのですが、検査室や薬局などは部署に1台しか設置されておらず、院内イントラネットが十分に活用されていないと考えられるところもあります。このような状況の中、医学資料室や医局ラウンジ、職員食堂にのみ『図書室だより』を貼り出していた時と比べて、どの程度の職員が『図書室だより』を見ているのか、紙面によるアンケート調査を実施しようと考えました(図4)。

**アンケート**

【図書室だよりのWeb配信を、2008年11月から開始しました。食室・医局に掲示していた時と比べて、読者の目にも多くなくなったのではないかと思います。そこで、『図書室だより』についてアンケートをとり、より利用しやすい紙面をつくってみたいと思います。また、図書室全般についてのご意見もお聞かせください。ご協力をお願いします。

調査年度： 調査室・産科産科医務  
 調査期日： 3月5日(水)

あなたの職種： 医師 看護職 薬剤師 診療部門技術職  
 専任職 合議職 看護助手 その他( )

経験年数(専任)： 年

Web配信について

1【毎月見ている 時々見ている たまに見ている まったくみたくない】  
 2【『図書室だより』をみて 図書室に雑誌・本を見に行くことが  
 3【よく利用している 時々ある たまにある まったくない】  
 4【『図書室だより』配信とは関係なく、図書室を利用【する しない】

結果について

1 図書室利用案内欄  
 【お答え下さい】 普通 わからない  
 内容についての募集

2 新書雑誌案内  
 【お答え下さい】 普通 わからない  
 内容についての募集

図4

対象職員は派遣、パート職員を除く主な常勤職員(524人)で、配布から1週間で回収しました。回答数は334人、回答率は60%でした(図5)。

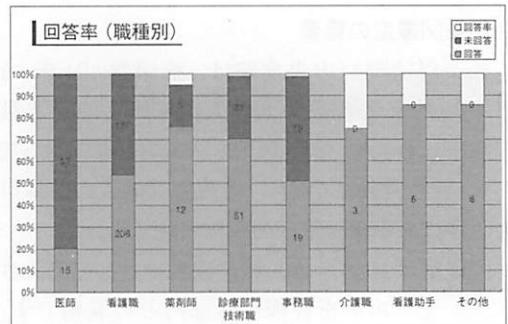


図5

#### IV. アンケート結果

##### 1) 『図書室だより』のWeb配信について(図6)

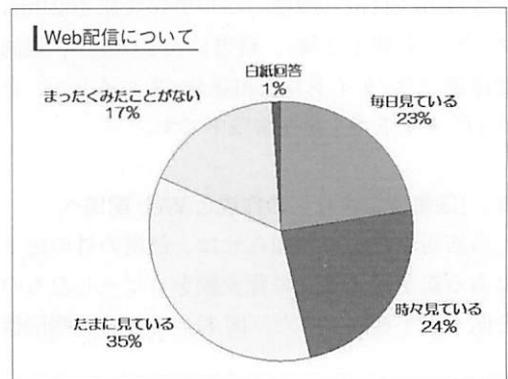


図6

全体では80%以上の人、特に看護師や診療部門技術職の80%以上の人が見ていました。この数字は、閲覧できるパソコンの台数からするとかなりの数ではないかと思われます。

2) 『図書室だより』をみて図書室に来ることがあるか (図7)

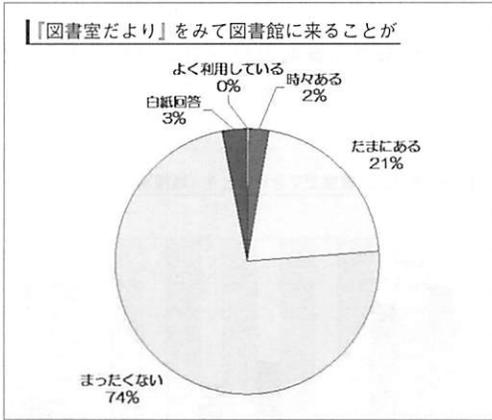


図7

ちょっと悲しい数字になってしまいました。

3) 『図書室だより』配信とは関係なく図書室を利用するか (図8)

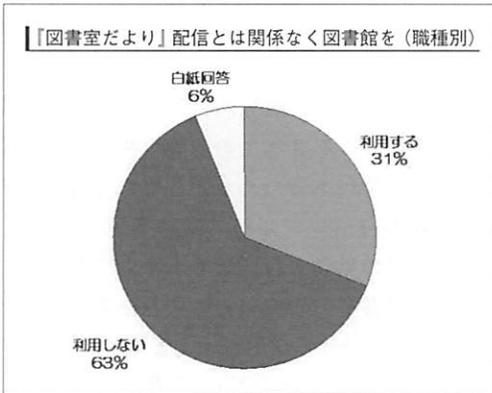


図8

この設問では、2)の設問と併せて『図書室だより』を見て図書室を利用する人もまったく図書室を利用しない人も、63%の「利用しない」の回答に含まれてしまったかもしれません。設問の難しさを感じました。

4) 紙面について (図9-図12)

『図書室だより』は、図書室利用案内と新着雑誌案内、特集雑誌(別置き)案内、お知らせコーナー(新着図書案内など)で構成されています。

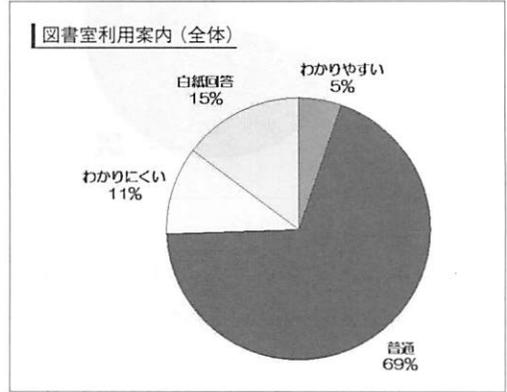


図9

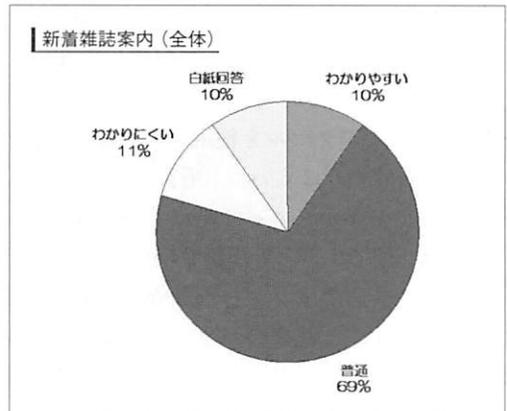


図10

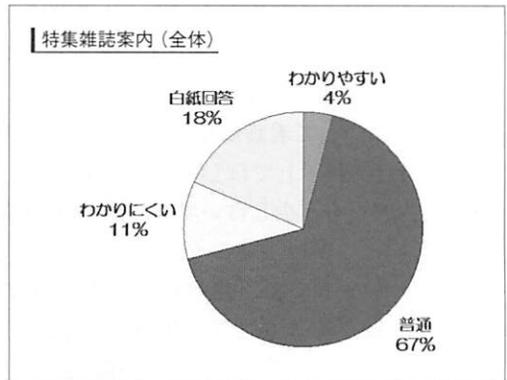


図11

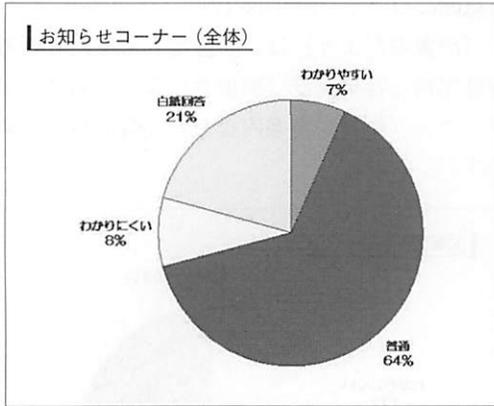


図 12

各コーナーをまとめると、「わかりやすい」4~7%、「普通」64~69%、「わかりにくい」7~10%でした。

『図書室だより』については、下記のような意見や要望がありました。

- ・パソコンで開いた時に線がじゃまで見にくいので、別のソフトを利用して配信してほしい。(診療部門技術職 22 年)

- ・Web 配信でエクセルを使用しているため、ラインだらけでみにくい。(看護職 14 年)

- ・エクセルの線がダブって見にくいです。表にしてほしいです。(看護職 2 年)

これは、今回のアンケート調査で初めて判明したことですが、部署のパソコンによっては開くときに不具合が生じていたようです。電算室に改善を要望しました。

その他、このような意見もありました。

- ・雑誌名などがたくさん並んでしっかり見ようという気持ちになりにくいです。すっきりできたら…。(医師 22 年)

- ・新着案内について看護師用・医師用など部門ごとに分けて掲示してほしい。(看護師? 年)

- ・雑誌の内容をもう少し書いてほしい。(看護職 12 年)

- ・インターネットでよく使われている Web の特集やトピックスなどを取り上げてほしい(医学界、看護協会系など)。(看護職 12 年)

- ・NEWS 的な記事も取り上げてほしい。(診療

部門技術職 20 年)

- ・新着案内について、トピックスなどの項目があるので興味をひく。図書室は利用してないが、参考にして書店で見ている。(看護職 21 年)

また、今回は図書室についての初めてのアンケート実施でしたので、文献検索についても調査項目に上げました。それが次の項目です。

5) 文献検索が図書室のパソコンからできることを知っているか (図 13)

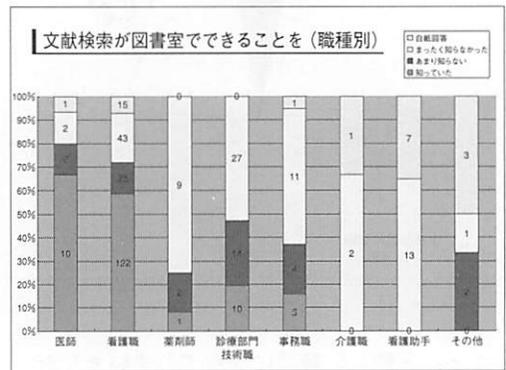


図 13

この調査では、医師に次いで看護師の約 60% が図書室で文献検索ができることを知っていました。

これは、当院には敷地内に看護専門学校があり、毎年 6 月ごろ 3 年生の看護学生に対して文献検索の授業があるためかと思われます。その時は学校のパソコンルームでの実習のほかに、当院図書室の見学も行います。そして夏休み前などは、図書室へ研究発表の資料を集めるために文献検索に訪れる学生が増えます。

このことが、次の設問 6) で看護師の約 30% が「文献検索の方法を知っている」、設問 7) で看護師の 60% が「文献検索を利用したことがある」という回答へとつながったのではないのでしょうか。

以上より若い世代の看護師へは、文献検索については周知できているのではないかと思います。

6) 文献検索の方法を知っているか (図 14)

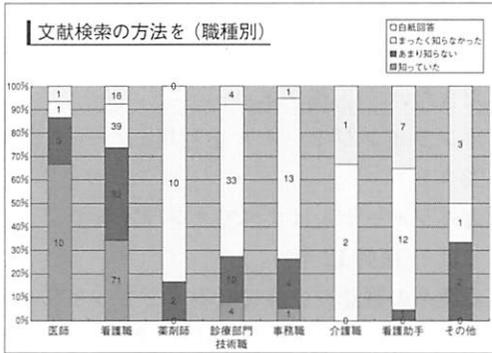


図 14

7) 文献検索を利用したことがあるか (図 15)

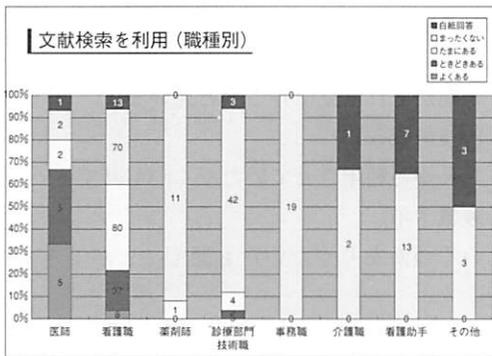


図 15

8) ほしい文献が図書室になれば、取り寄せてもらえることを知っているか (図 16)

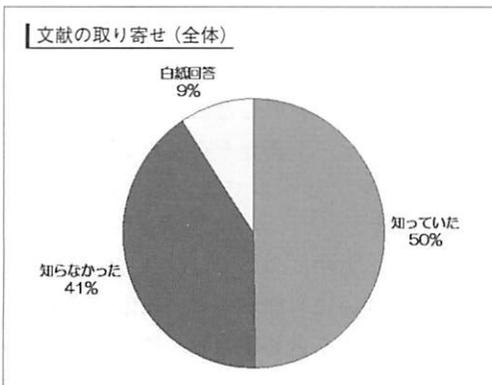


図 16

文献検索については、下記のような意見や要望・質問がありました。

- ・日本語論文の検索も可能ですか？(医師 20 年)
- ・パソコンが苦手でも手順通りでできるような案内があるとよいと思う。(看護職 11 年)
- ・文献の取り寄せ方とか丁寧に教えてもらい、取り寄せることができた経験があります。文献を探すのに色んな範囲で探せたらと思います。(看護職 23 年)
- ・部署でも文献検索ができればいいと思います。(看護職 3 年)
- ・文献検索の仕方がわからない時、教えてくださり助かっていました。(看護職 23 年)
- ・使い方をもっとわかりやすくパソコンの前とか見やすい所に貼っておいてほしい。(看護職 ? 年)

今回のアンケートでは、文献の取り寄せ方法について、「まったく知らなかったという」35%の人にも、文献が入手できるということを知ってもらえたのではないかと思います。

9) 図書室全般についての要望

- ・利用しやすい雰囲気にしてほしい。(事務職 3 年)
- ・もう少し整理整頓、掃除がされているとよいと思う。パソコンまわりとか。(診療部門技術職 ? 年)
- ・本の整理、少し乱雑である。(看護職 12 年)
- ・多忙・手狭なのは理解できるが整理整頓をお願いしたい。新着雑誌の陳列をなるべく早くしてほしい。(医師 ? 年)
- ・『図書室だより』はわかりやすくてよいが、実際の図書室利用がわかりにくいのであまり活用できていないので、図書室そのものをもっと利用しやすくしてほしい。(看護職 2 年)
- ・図書室の利用方法・バックナンバーを見る方法・本の借り方がわからないので、なかなか利用する気になれない。1日でもいいので雑誌を借りて帰りたい。(診療部門技術職 5 年)
- ・雰囲気が暗い。聞いても不親切な対応の方がいて嫌な感じがしたので改善してほしいです。

(看護職 19年)

・図書室の利用をしづらい。図書室を活用していきたいと思います。(薬剤師 18年)

・どこに何が置いてあるのかの表示や見取り図があればいいと思う。(看護職 2年)

予想はしていましたが、おおよそ図書室とは名ばかりの書類倉庫のような状態のため、お叱りの言葉がたくさんありました。閲覧机の上には収まりきれない入院カルテの山があったり、閲覧棚の前に寄贈雑誌(未製本)の山があったり、バックナンバー棚の前にも入院カルテが山積みされていたりと、非常に利用しづらい状況になっていることを日ごろから感じていました。また、司書以外の職員も出入りしていますので、名札に司書とわかるような工夫もできればと思います

・24時間利用可となっていますが、夜勤帯でも使えるのですか?また日祝日も使えるのですか?(看護職?年)

・図書室を利用する時間がない。(診療部門技術職 20年)

・図書室の利用方法・手順・時間がわからない。(診療部門技術職 20年)

医学資料室では入院カルテも管理していますので、セキュリティ上扉にはナンバー式のロックが付いています。夜間は警備員に開錠してもらうことで使用できますが、入りやすい雰囲気ではないことは確かです。やはり図書室の見取り図や案内板などの工夫が必要であると思いました。

・カルテを出してもらう程度にしか利用がないので利用することはありませんが、介護・福祉に関してもあればうれしいです。そうなれば利用することもあると思います。(事務職 16年)

・Webではないのですが、インターネットのできるパソコンをもう少し増やしてほしいです。Dr.は他で利用できるかもしれませんが、私たちは図書室のみなので…。(診療部門技術職?年)

・共有で使用できる文献については、実費なしで取り寄せてほしい。例えば行事などのイラスト集など。(介護職 2年)

・患者対応(利用)が可能な図書室にさせていただきたい。(医師?年)

・オンラインジャーナルを利用したい。(医師 22年)

・海外ジャーナルはすべてオンラインでよいのでは?(医師 12年)

・看護系の雑誌や資料になる本をもっと取り入れてほしい。医師系の本が多く難しい。(看護職 4年)

・看護の本を増やしてほしい。(看護職 12年)

・最近の雑誌なども取り寄せて下さっており困った時には見せてもらっています。限られたスペースですので整理整頓は大変だと思います。(看護職 23年)

・時間があれば見に行こうと思います。(診療部門技術職 5年)

・これから利用させていただくつもりです。(看護職?年)

いくつかありがたい声も聞くことができました。

## V. おわりに

今回のアンケート調査では、時間の制約もあったためか回答率も低く、全体の意見が反映されているかどうかは難しいところです。ただ、図書室からの一方通行である【図書室だより】のWeb配信について、日ごろ聞くことのできない利用者の意見がほんの少しわかりました。

また、まったく利用したことがない職員に対しては、アンケート調査を行ったことにより図書室の存在をアピールできたのではないかと考えています。

アンケート方法については、選択回答の設問は回答率が高いにも関わらず、自由回答欄では白紙回答が多くを占めました。このことについては、少しでも回答してもらえようような設問の仕方などを工夫しなければと思いました。

今までは、入院カルテの管理に追われて図書室の業務に対して一日のうちほんの一割程度しか裂くことができませんでした。しかし、このアンケート調査をきっかけに、大勢の人たちにとって利用しやすい図書室を目指して整備を進めていかなければならないことを痛感しましたし、そのためには慢性的な人手不足の解消を、もっと病院管理者へ積極的に働きかけることも必要ではないかと思えます。

『図書室だより』については、2005年1月より作成していますが、紙面のマイナーチェンジは行っても、大胆に変更することなく今日に

至っています。今後、図書室の周知方法を工夫し変更していくことによって、職員の「利用しよう」という気持ちを促し、もっと図書室に関心を寄せてもらうことができればと思います。

そして、現在は図書室のページは当院のホームページにリンクされてはいませんが、院内のIT化に乗り遅れないようにするためにも、図書室のIT化も積極的に進めていかなければと思います。

『図書室だより』についての参考意見や改善点など、たくさん頂けたらと思います。